



平成26年3月4日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
(コード番号：4572)
問 合 せ 先 取締役経営管理本部長 相川 法男
(TEL：078-302-7075)

金沢大学がん進展制御研究所との共同研究契約締結のお知らせ

当社は、別紙の通り、国立大学法人金沢大学（学長：中村信一、所在地：石川県金沢市角間町、以下「金沢大学」という）と、慢性骨髄性白血病（CML）のがん幹細胞を標的とした治療薬開発に関する共同研究契約を締結いたしましたのでお知らせいたします。

なお、本共同研究契約の締結が、当社グループの連結業績に与える影響は軽微であります。

以上

平成26年 3月 4日

関係者 各位

カルナバイオサイエンス株式会社

金沢大学がん進展制御研究所との共同研究契約締結のお知らせ

カルナバイオサイエンス株式会社（代表取締役社長：吉野公一郎、本社：神戸市中央区、以下「当社」という）と、国立大学法人金沢大学（学長：中村信一、所在地：石川県金沢市角間町、以下「金沢大学」という）は、慢性骨髄性白血病（以下「CML」という）のがん幹細胞を標的とした治療薬開発に関する共同研究契約（以下「本共同研究契約」という）を、平成26年2月21日付で締結いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 本共同研究契約の目的

当社と金沢大学がん進展制御研究所は、共同で、CMLのがん幹細胞を標的としたキナーゼ阻害薬の研究開発（以下「本共同研究」という）を行います。

2. 本共同研究契約締結の背景と内容

現在、CMLの治療には、イマチニブメシル酸塩（商品名：グリベック、製造販売元：ノバルティスファーマ株式会社）をはじめとするチロシンキナーゼ阻害剤が広く使用されており、大きな治療効果を示しています。しかしながら、一部の患者さんでは、CMLが根治せず再発することがあり、CML治療を行ううえで大きな問題となっています。一方、近年、がん克服のアプローチとして、がん細胞を生み出すもととなる「がん幹細胞」が注目を集めており、白血病細胞の中にも少数のがん幹細胞が存在することが明らかとなっています。さらに最新の研究では、チロシンキナーゼ阻害剤治療後の再発の原因として、このCMLのがん幹細胞が大きく関与していることが明らかになってきました。すなわち、CML細胞の大部分を占める細胞はチロシンキナーゼ阻害剤で治療することができますが、ごく僅かに存在するがん幹細胞がチロシンキナーゼ阻害薬に対して抵抗性を示し、CMLを再発させるものと考えられています。

金沢大学がん進展制御研究所がん幹細胞研究プログラム・がん幹細胞探索プロジェクトの仲一仁准教授らの研究グループは、CMLマウスモデルを用いてがん幹細胞の抗がん剤抵抗性の基礎研究と新しい治療法の開発に取り組んでおり、すでに有望なターゲットとして特定のキナーゼが同定されています。このキナーゼの働きを抑制することができれば、治療抵抗性の高いCMLのがん幹細胞を根絶することができ、がん根治療法として新世代の分子標的治療薬の開発が期待されます。

本共同研究では、金沢大学がん進展制御研究所の有するCMLのがん幹細胞に関連するシグナル伝達経路研究の最先端の科学的な知見と、当社が有するキナーゼ阻害薬研究に関するノウハウ等を結集させることで、CMLのがん幹細胞を標的とした新しい医薬品候補化合物の創製を目指します。

3. 今後の業績に与える影響について

本共同研究契約の締結が、当社グループの連結業績に与える影響は軽微であります。

以 上

(ご参考)

金沢大学の概要

- (1) 名 称： 国立大学法人金沢大学
- (2) 学 長： 中村信一
- (3) 所 在 地： 石川県金沢市角間町
- (4) WEB サ イ ト： <http://www.kanazawa-u.ac.jp>



金沢大学がん進展制御研究所の概要

- (1) 名 称： がん進展制御研究所
- (2) 所 長： 大島正伸
- (3) 所 在 地： 石川県金沢市角間町
- (4) WEB サ イ ト： <http://www.kanazawa-u.ac.jp/~ganken/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】

カルナバイオサイエンス株式会社
経営企画部 IR担当
TEL：078-302-7075